

企業・求職者両方に寄り添いたい

日本経済に大打撃を与えている新型コロナウイルス感染症。雇用の影響は少し遅れて顕在化する恐れもあり、動向には注視する必要があります。4月に着任された原口所長に、管内の雇用情勢等についてお伺いしました。

初めての加古川で精一杯の一年を

実は10年ほど手話を習っていたこともあり、窓口業務をしていた頃は、通訳がない時は代わりに対応したこともあり。また、単身赴任していた頃、休日の時間を持って余していた時に「介護をやってみよう」と思いつき、勉強と並行してグループホームでボランティアとして現場経験を積んだこともあり。元々、人のお世話が好きな性分なのかもしれません。

定年前最後の1年、加古川で精一杯の力を出し切ろうと思っっていますが、新型コロナウイルスの影響により経済

の先行きが不透明ななかで、雇用も不安定な状況が続くと思われ。企業・求職者両方に寄り添えるよう、職業安定所としても取り組んでいかなければならないと考えています。

合同面接会の通常開催ができない

コロナの影響による解雇などがニュースで報じられていますが、加古川管内では現在はまだ影響は少なく抑えられています。企業が雇用を維持できるように頑張っているというこの表れでもありますが、それに対し、今年4月の就職紹介件数が289と、前月比マインナス35.9%、前年同月比マインナス27.9%と、新規採用への影響が出てきているようです。また、有効求人倍率も加古川は昨年4月の1.07が徐々に下がり、本年4月は0.74と、県下では「1」を上回っている安定所が多いなか低い数値が出ています。

高卒求人については、当所アンケートによると、まだ3割ほどの回収率ですが、ほぼ昨年同様との回答を得ています。高校生が自分の目で見たり、話を聞いたりして将来を選択するというのは大切なことで、例えば「高校内企業説明会」などは非常に有効な機会だったのですが、今年は開催が難しい状況です。東播磨にはものづくりなど優良企業がたくさんあり、その地元企業

の生の声を聞き、「求人一覧表」からだけではわからない良さを知ってほしい、という意味もあっただけに非常に残念です。

今までのような就職面接会が開催できないなか、どのようにして地元企業と求職者をつなぐのかが我々の大きな課題です。会議室を使って、1社ずつの面接会という方法もありますし、リモートの活用についても他の事例を参考にしていきたいと思えます。

雇用調整助成金の相談・申請対応の体制を整えて

4月以降、雇用調整助成金の相談・申請が増えてきました。事業主の皆さんも、苦楽をともにしてきた従業員と協力し、この難局を乗り越えるため、雇用維持の方法を模索しておられます。当所でも専用の相談窓口を作り、他部署からも応援要員を増員し、スムーズに支給できるよう体制を整えており、その他の雇用に関する助成金のご相談もお受けいたします。

多くの事業主の方にとっては、過去に類を見ないほどの大きな障壁が立ちました。はだかっています。

その壁を乗り越えるお手伝いが少しでもできるよう、所員一丸となって精一杯努めてまいります。お困りの際はどうぞご相談ください。



加古川公共職業安定所
はらぐちともあき
所長 原口 智章 さん